



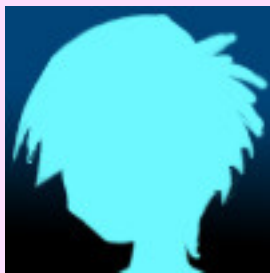
目次

体験版

製品版には18枚+αのエロシチュ CGが入っています。

当体験版は製品版が完成していない段階で用意したものです。実際のものとは内容が変わる可能性があることをご容赦ください。

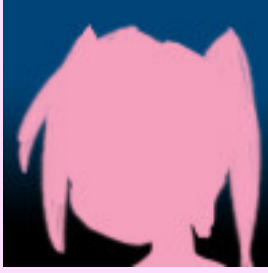
製品版の違い：体験版で公開している一部やり取りが製品版では増量肉付けされています。



アオイ「ついにポスター出来たんすねえ！」

ショートヘアのメンバー、アオイがしげしげと私たちの初ポスターを眺める。「Female(女性)と Malle(男性) 全てを繋げる」というのをコンセプトに立ち上げた“FM4(エフエムフォー)”が、やっとライブを開けるまで大きくなったのだから感慨深いのは当然。

両性具有のメンバーだけで結成した4人のアイドルで、同性愛や性同一性障害などへのポジティブなメッセージにもなって、あまり悪評にならずに活動できたのも功を奏した。



なでしこ「今回のこの小さいステージが終わったら今度は野外ステージかあ～。ドキドキしちゃいます！！」

ツインテールのなでしこがにこやかにピョンピョン跳ね回る。

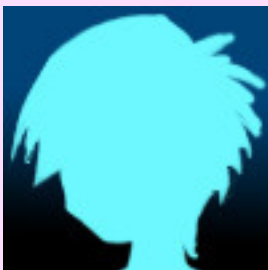


やまぶき「ましろの人気のおかげも大きいけどね。」

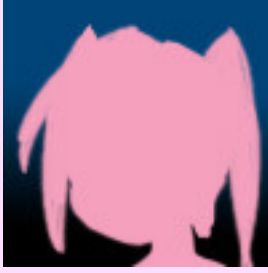
明るい琥珀色の衣装のやまぶきが私に目を向ける。私は少し気まずい気持ちもあって目を逸らした。



『そんなこと無いわ。誰かひとりでも欠けたら FM4 じゃなくなるんだから。』



アオイ「謙虚っすね～ましネエは！カッコいいっす～！！」



なでしこ「だから人気あるんですね～オネエさま。」

こんな感じで「クールでリーダーシップのあるお姉さま」みたいなイメージになってしまった私。内心はその役割が重く感じる時もある。

ふと、スタッフの人が楽屋をノックしてきた。そろそろ出番だ。この小さいステージの出演も最後になるかもしれない。

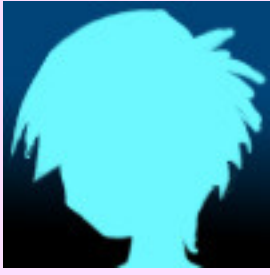


『さあ、これもライブツアーのひとつと思って、全力を出してやりましょう。』

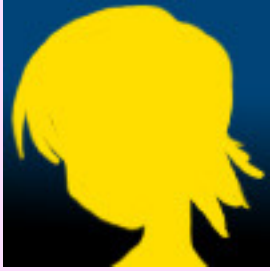


3人「おーっ！」

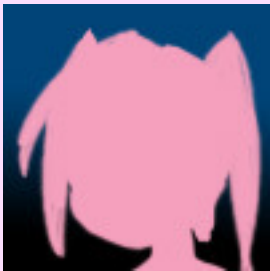




アオイ「おつかれー！」



やまぶき「最初のイベントもこのインディーズライブだったわね。」



なでしこ「ふえええ、それ思い出してあたし泣いちゃいました〜。」



『なでしこ、まだまだこれからなんだから、ここで泣いてる場合じゃないわよ。』

汗をバスタオルで拭きながら、ベンチに腰掛けると、プロデューサーが入ってきた。



『あ、プロデューサー。』

p 「お疲れ様。唐突だけど、次のライブ前に検査をさせてもらうわ。」



アオイ 「な、なんすか検査って？」

p 「契約内容の確認も兼ねてね。」



『け、検査ってまさか……。』

私は額から脂汗がにじんできた。何だか嫌な予感がしてくる。

p 「はい、ましろちゃんも見せて。」

全員バスタオル姿でスタジオに集結。どの子を見ても大きな陰茎がぶら下がっている。両性具有の子の多くは一般男性よりも大きいのが「普通」となっているのだから、別段おかしいことではないのだが……。

やまぶき 「ましろどうしたの？ 恥ずかしい？」

なでしこ 「あたし達も見せちゃってるんだから大丈夫ですよー！」

アオイ 「確かにましネエって普段必死に隠すもんなぁ〜。どうにかして見てやろうと思ってたのに。」

やまぶき 「あんたねえ……。」

あっけらかんとした3人の会話の中、私の顔がみるみる赤くなる。が、ここで断れる雰

困気でもない。意を決した私は、震える手でバスタオルをゆっくりと広げた。



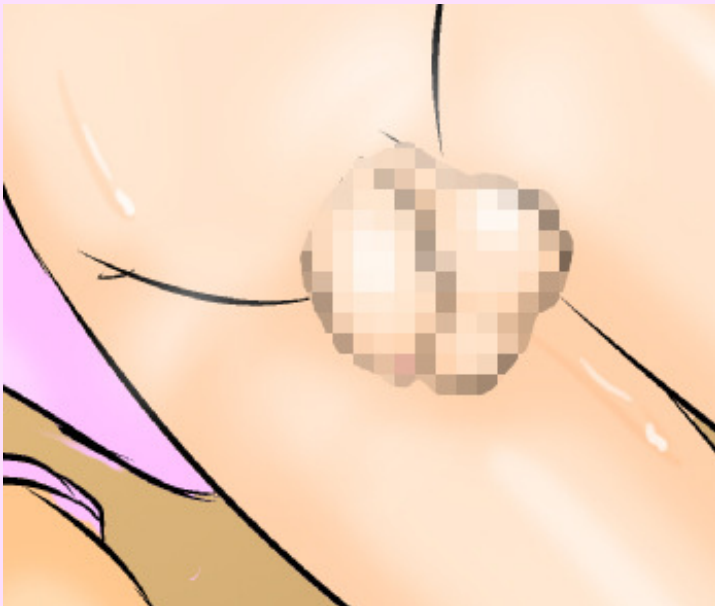
p 「え？」



やまぶき「え!？」



アオイ「ええっ!？」



『……』

ちんまりとした包茎ちんちんに、周囲は目が点になっている。私の漂わせていたイメージとのギャップもあったのか、その驚きは想像以上だったようだ。



やまぶき「こ、こんな・・・サイズだったんだw」

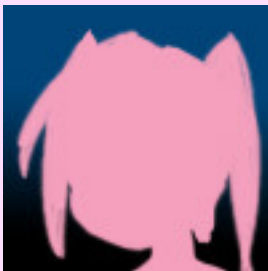
笑いを堪えるように口元に力を入れるやまぶき。アオイは少し半笑いの表情で私の包茎チンコを凝視している。



アオイ「か、かわいいいい！！」

アオイは特に普段から私のことを好きなようなのだが、今回はおもむろに私の包茎チンチンにアオイの大きなものが反応していた。

p「あら、しかも陥没乳首だったのね。」



なでしこ「だから隠してたんですね〜。」



『・・・すいません。』

契約書に「陰茎のサイズは～cm以上」とあるわけではないのだが、履歴書にて、3サ

イズだけでなく、陰茎の大きさの申告が必要だった。「短小包茎です」と公言するのが恥ずかしかったので私はかなり大きく誤魔化していた。まさか見せることになるとは思わなかったのでバレないと思っていたのが安直過ぎたようだ。

p 「一応プロフィール上記載してたから、申告を偽ったりしたらファンに申し訳ないじゃないよ。」

普通のアイドルは当然のことながら。陰茎の大きさまで公表することは無いが、私たちの場合は「両性」がコンセプトのため、その点もホームページなどで明記していた。



『あ、あの、もうクビ・・・ですよね。』

しばらくの沈黙。

ふうと小さくため息をもらしたプロデューサーは、私の目をじっと見た。


p 「クビにはしないけど、条件があるわ。」



『本当ですか！？が、がんばります！！何でもしますから！！』

なにはともあれクビにはならず済み、メンバー含め、私はそっと胸をなでおろした。ただ、自分の恥部が晒されたことに、私は言い知れない心臓の激しい鼓動と、高揚した気持ちで全身いっぱいになっていた。





当日・・・

ついにツアーライブが始まった。ドームの真っ暗なステージで、重低音の音楽が流れる。私が立っているステージが、床下から上へぐんぐんと上がっていく。私はごくりと生唾を飲んだ。

メンバー4人が上がると、ステージ中に歓声が響き渡る。が、それが次第にざわつきだす。

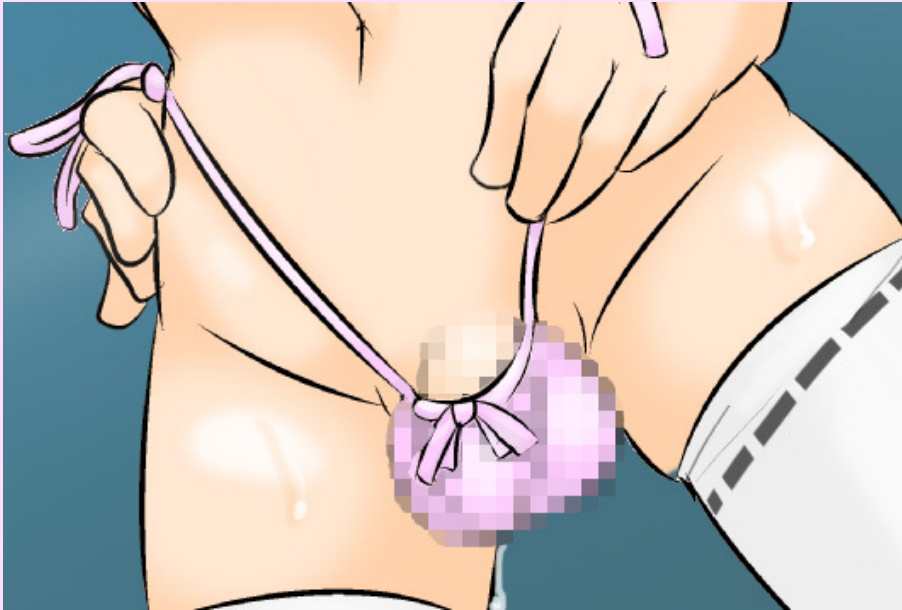
私は上半身裸。それだけならまだしも、下半身は辛うじてイチモツを包み込めるほどの面積しかない巾着のようなパンツ一丁という最低の井出達になっているのだから、観客が驚くのは当然だ。

この登場だけで、少なくとも「陥没乳首」であることがばれてしまい、下半身の布地の大きさからも普通に考えればかなり小さいチンチンであることも分かってしまっただろう。

私はあくまで冷静に、自分のキャラクターを維持しながら、表面上は整然と観客側を見据えるよう努めた。



前の方の観客からかすかに声が聞こえてくる
「あれ？ましろちゃんの格好・・・。」
「タイツ・・・じゃないよね？」
「まさかあれ、おっぱい丸出し!？」
「それよりパンツ見てよ！何あれえ？www」



観客の言葉に全身ついばまれているようにチクチクする。背中中の産毛がぞわぞわと総毛立ち、始まったばかりだというのに汗で全身びしょ濡れになってしまった。

スクリーンに私が映ると、そのざわめきが観客の前面から全体に広がる、そこかしこから嘲笑のようなものが混じったざわめきがしてくる気がするが、私の緊張と羞恥心は既に臨界点を超えていて、はっきりしない。

そんな私の事情を無視するかのように、私たちのデビュー曲が流れだす。私もあくまで冷静に、普段どおりになるよう意識しながら、振り付けどおりにステップを踏む。

・・・が、このダンスが既にクセモノで、小さな紐パンツで辛うじて玉袋とチンチンを包み隠しているものが、今にもあふれ出てきそうだった。

p 「陥没乳首で乳頭だって見えないんだから、パンツ以外不要でしょ。パンツだって勃起しなければこれで充分よ。あなた、まさか舞台上で勃起するわけないわよね？」

・・・プロデューサーの言葉が思い返される。

そう、今回は私の責任なんだから、これくらいの「みそぎ」は当然！陥没乳首が晒されたのは死ぬほど恥ずかしいけど、下半身は“一応”隠れてるわけだし。このまま冷静にやれば、今回の騒動だけで片がつく！！

あとがき



体験版のご利用ありがとうございます（。・ω・。） 導入部分だけ今回はご紹介しました。今回はこんな感じで勃起しても包茎なキャラクターです。よく市場にあるような巨根は出てきませんのでおきをつけくだちい。

もしも興味を持たれたら是非製品版もお手に取ってください。では、今回のご利用本当にありがとうございました！！m（ ）m

かめべやメインサイト=<http://kamebeya.o0o0.jp/index.html>

ふたにゆう（フタナリサイト）=<http://futanari.crap.jp/index.html>

ゲームに関するお話はこちらにどうぞ！=<http://6303.teacup.com/sumomomomomo/bbs>

無断利用、無断配布は著作権法違反にあたります。

私用に使われる以外はやめてね！（>__<;）

あまりにヒドイと法的な対処するしかなくなっちゃうのでやめてちょう！